

# 「リケ女」の生の声聞く

豊田市小坂町の豊田西高校（杉山賢純校長）が15日に市民文化会館で開いた「女性技術者講演会」。人生の方向性に左右する文理系選択を決める進級前の1年生を対象に行われ、生徒らは現役で働くトヨタ系企業で働く女性から、進路選択の動機や現在の仕事、結婚・出産後の両立や働き方について「数学や物理が好き嫌いというよりどんな職業に就きたいかで選択した」「男性の職場だったが制度の充実が進んでいる」などの生の声に興味深く聞き入った。一般財団法人トヨタ女性技術者育成基金との共催。

【後藤真一】

未来を担う科学技術系の人材育成を狙い、理数教育の充実を図る文科省の「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」に指定された豊田西高校の事業の一環。女性技術者講演会は指定翌年の2014年度から毎年開催している。岡崎や刈谷、時習館など全国の伝統校が指定されているが、企業や地域と連携した事業は全国でも珍しいという。

田久美子さん、名古屋出身  
名城大卒、愛知製鋼鋼生産技術部の安田萌さん、埼玉県さいたま市出身・三重大卒  
3人は幼いころの興味や受験勉強などの学生時代から、入社動機、仕事内容、毎日のスケジュールなどを画像などで紹介した。

## 豊田西高SSH事業



進路選択の動機や仕事内容などについて話を  
する女性技術者＝15日、豊田市民文化会館で

系は男子ばかりで内部進学し、数学が嫌いで現国が得意。2年時に英国に短期留学し視野を広げ化学は幅広い分野に役立つ将来の進路選択が広がり、安田さんは「高1時は」と振り返った。

## トヨタ系企業の技術者が講演 文理系選択の参考に

高校時代に学んだことで社会人になって役立ったことを望月さんは「勉強だけでなく、森田さんは「どちらをこれから勉強の方向に決めて仲間と何かを協力して成し遂げるチームワーク、協調性、人の話を聞くこと」と、森田さんは「海外の事務所とのやり取りなど文理を問わず英語は必須。人と話したりメールでのやり取りに力もコミュニケーション力を培っておくことは大切」と強調した。

就職するにあたっては「幼いころから好きなゲーム会社を目指したが、私を必要とせず、トヨタの人事から自分の性質を吟味し選んでいきたい」という認識（笑）と望月さん。森田さんは「大学時代に教員になりたいもなかったが当初の目的通り、ものづくりにかかわり、地元の元気で活力があり将来性のある会社で働きたいと思った」と話した。文系と理系で将来職業の選択が多いのはどちらかと問うと安田さんは「理系から文系大学には進めるが、文系から理系に行くのは難しい。選択肢は理系の方が多い。どっちに行くか迷ったら理系に行きた方が後悔しない」、森田さんは「どちらをこれから勉強したいか自分の素直な気持ちで大切にしたい」と訴えた。また何に向いているか分からないという質問に安田さんは「ムリにいま決める必要はない。ただアンテナを広げ仕事を知り、面白いと思えることが大切。後は信じて愚直に全うすることが大切」と語った。

豊田西高ではSSH事業の一環で生徒自身が課題を設定し実験などで解決を目指す先進的な学習をする「課題研究」や豊田市の姉妹都市であるイギリスのダービーシャーやロンドンに生徒を派遣する事業などを実施。現地3日間、すべて英語による合同科学実験や合同研究発表会など教育交流を行っている。今年度は青色発光ダイオード（LED）開発で14年にノーベル物理学賞を受賞した名古屋大学の天野教授の講演会を開催した。

平成29年9月28日（木） 新三河タイムスより

「この記事・写真等は、新三河タイムス社の許諾を得て転載しています」